

写

永代売渡し申家屋敷之事

一本石町老町目南側より從ニ西角ニ六軒目、裏行うらのゆき町並式拾間有レ之、我等所持之家屋鋪「老ヶ所、此度代金五百両ニ相極、貴殿方江」  
 永代売渡し、五人組・名主立会、右之金子不レ残「売主方江不レ残  
 請取申所実正也、此家屋敷ニ付」從ニ 御公儀様ニ御構無ニ御座、  
 拝領地・拝借」地ニ而も無レ之、諸親類者不レ及申、横合よこあひ違  
 乱申者決而無ニ御座ニ候、万一彼是申者かれこれ有レ之候ハ、加判之者  
 共何方迄も罷出、急度きつと埒明可レ申候、為ニ後日「家屋敷」永代売  
 券証文、仍如レ件

家屋敷

売主

利左衛門

寛政七卯年十二月十日

五人組

甚五郎

同

九左衛門

同

四郎左衛門

同

勘助

名主

伝左衛門

天田 善兵衛殿

右屋敷、前々箕輪村利左衛門買候節ハ、千五拾両ニ御座候所、「此  
 度高浜村幸右衛門世話を以、正金五百両ニ而地面計り」買取、家  
 作此方入用ヲ以、辰正月も取掛り、三月皆出来ニ相成候、以上